中心市街地　安心安全　定住促進　観光　景観　雇用創出

梼原地区

（高知県　梼原町）

○　計　画　期　間　平成 16 年～平成 20 年
○　面　　積　52ｈａ
○　交付対象事業費　1,298 百万円
○　市人口　4,345 人（地区内人口　1,047　　）

ポイント

豊かな自然と共生できる、やすらぎと　もてなしのある魅力あふれる街づくり

地区概要

平成 17 年 4 月に景観行政団体になり良好な住環境の形成、質の高い空間づくりのため無電中化・裏配線整備を実施し住みよい環境を整備していく。

目　　標　梼原町の地域資源を活かし、人、物の動きを活性化させ地域に活力をみなぎらし、地域振興を図る。住んでいる人たちがずっと住み続けたいと思う魅力溢れるまちづくり。

指　　標

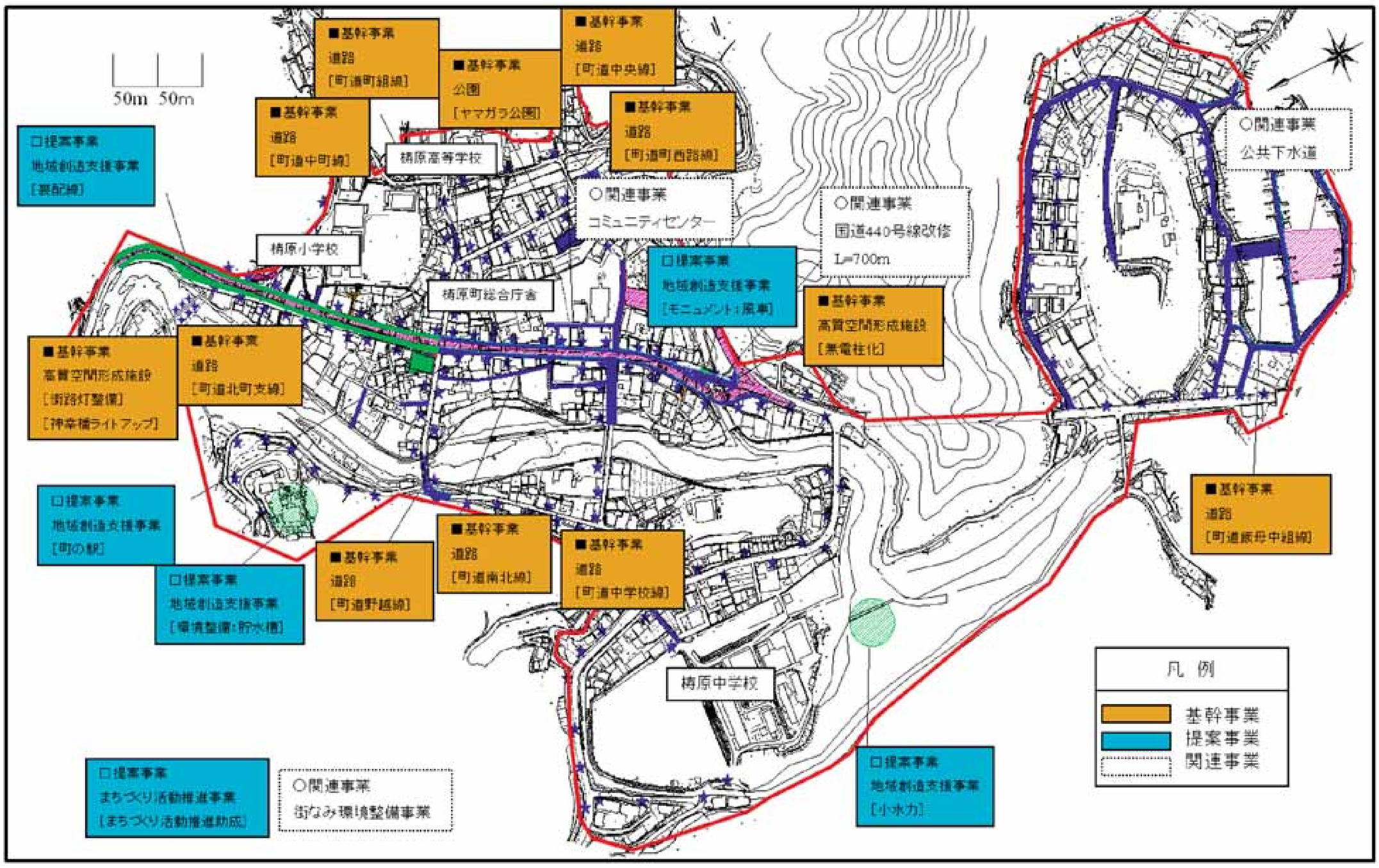
街路等の整備、改善により住でいる人や観光客の快適性の向上を図り住んでいたい、訪れてみたいまちづくり。

観光客数	4,647 人	(H15)	→	7,011 人	(H21)
地区の人口	1,047 人	(H16)	→	1,152 人	(H21)
地区商店街の売り上げ	153,942 万円	(H14)	→	184,730 万円	(H21)
公園の面積	0 ㎡	(H16)	→	1.1 ㎡	(H18)

事業内容

基幹事業（1,376 百万円）→道路（幅員 5m～10m）、公園（1 ヶ所、子供から高齢者までが交流できる場所とする）、街路灯・街路樹整備、神幸橋ライトアップ、無電中化

提案事業（398 百万円）→まちの駅整備（観光拠点・中心地活性化の拠点とする）小水力発電（河川の落差を利用。発電した電気は、街路灯・モニュメントに使用）推進活動費（まちづくり活動費）風力発電モニュメント（環境にやさしく、自然と共生できる町のシンボルとする）裏配線（景観に配慮し良好な住環境）



地区の現況と課題

梼原地区には国道が 2 本あり、広域交通拠点としての立地条件を有しているが、街路、公園等の基盤条件が不備であり、町民や観光客のアクセス性が十分でない。地区内には魅力的な豊かな自然や歴史的にも重要なものがあるにもかかわらず、それぞれの整備で終わっていて繋がりがなく、魅力を活用できずにいる。

提案事業の特徴

風力発電（モニュメント）・・・町への入口に設置し、環境にやさしく、自然と共生のできるまちづくりのシンボルとする。

裏配線・・・良好な住環境の形成、質の高い空間づくりを整備する。

まちの駅整備・・・地区の中心地に地域物産の紹介や観光案内できる場所の整備を行い、観光拠点、中心地活性化の拠点とする。

小水力発電・・・河川付けかえ地にできた落差を利用し、環境にやさしく、自然と共生できるまちづくりを目指す。発電した電気は、モニュメント、街路灯に使用する。

推進活動・・・まちづくり活動費

計画策定プロセス

◇**計画ができるまで**・・・国道 440 号改良工事にあわせて、道路だけを整備するのではなく、「まちも一緒に元気にしよう！」という住民の熱意からまちづくりの検討がはじまった。

◇**ワークショップの開催**・・・地元住民主体（たくみの会）が中心となり開催している。未来への夢を語り、自分たちのまちへ誇りを持ちたいという熱い想いでまちづくりに取り組んでいる。

新しくなる道路の歩道の種類や街路灯、街路樹を自分たちで決めて自分たちの住んでいるまちに愛着を持って生活していきたいという思いから試験施工を実施。まちづくりの課題や地域の活性化について検討している。

◇**これから**・・・平成 17 年 4 月に景観行政団体となったことで、住民に景観への関心が生まれ、良好な景観形成を図って行こうと景観計画を平成 20 年 6 月策定予定です。8 月には国道 440 号拡幅工事が完了し、今までとは違った視点にたち今後も住民の方と一緒に新たなまちづくりを行っていきます。

～「たくみの会」が主体となり開催しているワークショップ～

たくみの会検討部会の様子（まちづくりについて侃々諤々している）

小学生が公園づくりへの提案の様子

公園内に設置して欲しい時計のイラスト（小学生提案）

ワークショップで出た意見をふまえ、舗装（6 種類）、街路樹（6 種類）・街路灯（4 種類）の試験施工を実施し決定

説明看板を設置

梼原町　中越　武義町長のコメント

本町では国道４４０号拡幅工事がきっかけとなりまちづくりがスタートしました。道路整備は「まち」を元気にするための手段であるという考えにより、地域活性化のための施策を住民主体で検討していただきました。当初は、要望も多かったのですが、先進地視察や協議を繰り返す中で、将来この町中心部がどうあるべきか、どうすればいいのかなど各自の熱い思い、夢が大きく膨らみはじ、自分たちでできることは自分たちで取組もうという姿勢が芽生えてくるようになりました。家の前にある国道の歩道の植樹帯は責任を持って管理していただくようになり、街路樹に自分で作成した名札を設置したり個人個人まだ差はありますが新しくできる「まち」に愛着と誇りが醸成されているように感じております。

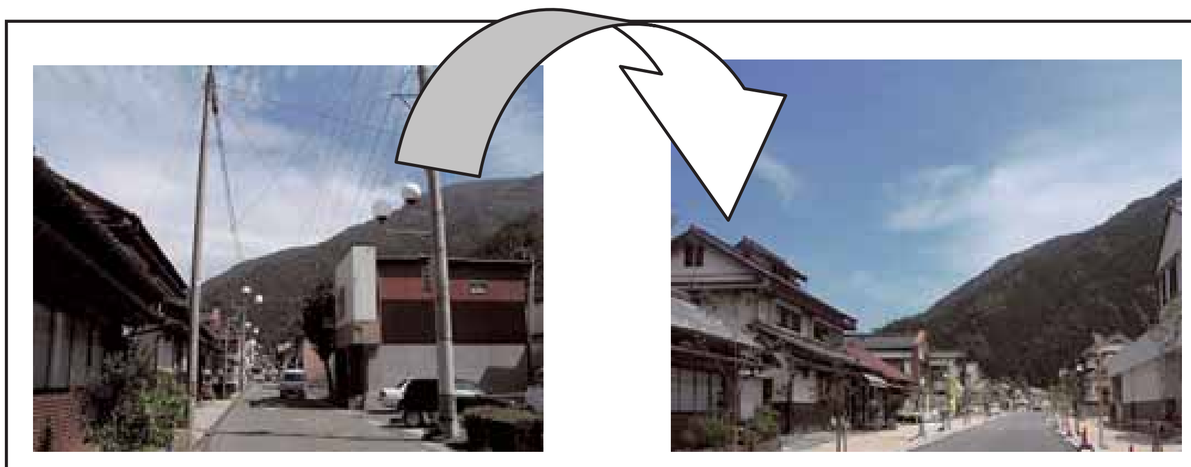
たくみの会　西川　豊正会長のコメント

平成７年より、道路整備にあわせ、まちづくりも一緒に検討していくことが必要だということで行政と力をあわせてまちづくり事業を行っております。十人十色で意見も様々あり話し合いが紛糾することもありますが、それも大切なまちづくりの過程だと実感しております。一人でも多くの人にまちづくりへの興味・関心を持ってもらいたいと思っております。

みんなが住みやすい、訪れてみたい、暮らしやすい町に誇りと自信を持って生活できる、安らぎともてなしのある魅力あふれる「ゆすはら」を地域の方と一緒に創っていきたいと考えております。

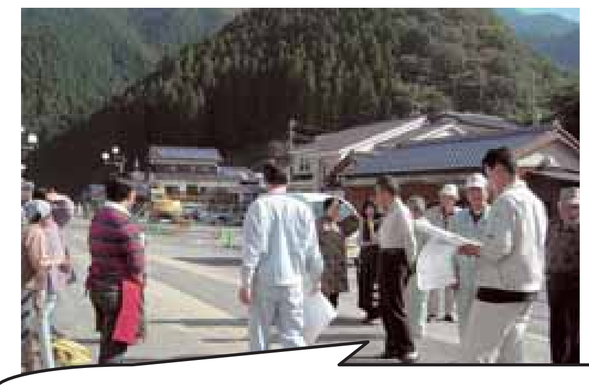
梼原町青年部　川田　厚博部長のコメント

国道４４０号の拡幅工事が着々と進みまちが大きく変わろうとしています。この工事と並行してまちづくりを進めていることを知り、これから梼原を背負って立っていく若い立場・視点でまちを動かしたい。自分たちにできることは何？どう関わっていけばいいのか？と感じたことがまちづくりに足を踏み入れたきっかけでした。そうして新しくなっている道路の歩道を使わせていただいて、ビアガーデンや野外ライブを開催したり自分たちでできる、自分たちも楽しめることを考え元気なまち梼原を一緒に盛り上げていこうとがんばっています。完成間近の道路とまちを眺めながら夢は広がります。



電線が張りめぐり景観を損ねている

無電柱化により、周囲の景観山並みが美しい



まちなかを歩きまちづくりに活かす。街路樹や街路灯の位置を協議。

たくみの会で決定した舗装（梼原の美しい自然景観、川の流れを表現している）

風車（風流鯨くん）モニュメントの設置により、住民に環境問題へ関心を持ってもらい、日本最後の清流四万十川の源流域の美しい自然を次世代へと引き継ぎ、残していくことの大切さを考えてもらう場を提供しています。また、まちへの入口へ設置したことで、まちなかへ観光客を誘導し活性化へとつなげていきます。